

# おかえり

ひきみとつながる。

UIターン情報誌 2026. 3月

## 特集

◆アンパンマン精神で歩む

◆ひきみ瓦版 テーマ：地域の担い手

◆交流から滞在、そして定住へ

- 日帰り体験
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 住宅に関する各種事業

ゆかり ちなむ  
前列左から 縁さん、因君

まつり いっせゆう おさむ ゆぐみ  
後列左から 祭さん、柴犬の巻休君、麻衣子さん、耕君、友法さん、慈さん

# 【特集】アンパンマン精神で歩む

## ―匹見町・善正寺住職 齋藤友法さん―

広島市から匹見町へ移住して19年。古刹・善正寺の住職、齋藤友法さん(40)は、移住早々に音楽ライブを開催し、地域に根ざした活動を続けてきました。5人の父として子育てをしながら、地域では多くの役職を担っています。その活動の根底にあるのは、アンパンマン精神でした。

### 縁に導かれ、匹見へ

生まれも育ちも広島市の齋藤さん。善正寺の遠縁にあたる先代住職に跡取りがいなかったことから、20歳そこそこで大きな選択を迫られました。バレエボールチームの指導者や教員になる道も考えていたため、迷いがなかったと言えば嘘になります。それでも、「縁のあるお寺が困っているなら」と、平成20年5月、匹見町へ移住しました。



本堂で開催した民族楽器ライブの様子。  
写真中央は齋藤さん (H21.4)

匹見上地区青少年健全育成協議会会長、PTA会長など、多くの役割を担っています。その根底にあるのは、アンパンマン精神です。

「困っている人がいて、自分が担うことで解決に向かうなら、それは自らの役回り」と考え、自分の時間や労力を惜しみません。

さらに、令和7年4月から匹見保育所の所長も務めています。益田市が進める保育所から小規模保育事業所への移行(8年4月)に向け、関係者と連携して準備に携わり、子どもの人数が少なくても保育が継続できる体制づくりを進めています。自らも友人に移住を勧めてきた経験から、仕事や暮らしを含めた慎重な判断の大切さを実感。結果を急ぐような呼びかけはせず、日々の保育や地域との関わりから生まれる信頼が伝わり、保育所利用につながることを目指しています。

移住後まもなく、寺が交流の場にならばと、音楽ライブ「達磨祭」を開催。地域内外から多くの人が集い、今でも「善正寺II音楽の寺」という印象が市民の間に残るほど。しかし、寺務と企画を一人で担う負担や家族が増える中、5回の開催を区切りに幕を下ろしました。開催を継続できたのは、門徒や地域の支えがあったからこそと、今でも感謝しています。

### 世のため人のため 巡り巡って自分のために

齋藤さんは、奥さんの麻衣子さん(37)と2男3女を育てています。匹見町には高校がなく、進学時に寮生活が始まるため、早い段階から子どもたちの自立を意識し、「25歳までに自分の道を決める」ことができよう子育てをしています。一方、寺務のかたわら、民生主任児童委員、

### 人口が減っても、価値は残る

匹見町の人口は約8000人(7年12月末)。この20年で半減しました。齋藤さんは、匹見の現状と将来を映画『天空の城ラピュタ』になぞらえます。縄文の古から歴史を重ね、栄えてきた匹見。人口が減った今も息づく価値と歴史を残していきたいと

考え、「人が訪れる導線(ルート)を描くことが鍵になる」と今春、「ペット墓」を完成させます。「参拝者が匹見峡温泉や飲食店にも足を運ぶきっかけになれば」と話します。僧侶として住民の人生の最期に立ち会い、匹見の歩みを見守る齋藤さん。ご縁に導かれ匹見に暮らし、自身の人生も匹見で全うする――その思いが揺らぐことはありません。



クリスマス会の様子  
(R7.12 匹見保育所)



長年の地域貢献の取組が評価され、  
「山陰中央新報社地域開発賞」を受賞しました  
(R6.10 山陰中央新報社より写真提供)

匹見上地区

## 次世代を担う ひきみっ子

令和7年の匹見町産業文化祭で、「匹見地区つろうて子育て協議会事業」として「子ども出店」をしました。“ひきみっ子”の出店は今回で4回目。企画では親子でやりたいことを話し合い、出店に必要な道具を中学生（匹中会）に教わりながら小学生が工作し、当日の運営も手伝いました。地元でも長く続く大きなイベントに子どもたちが自ら出店することで、地域を盛り上げる役目を果たすことができました。今後も地域の次世代の担い手となる子どもたちが地域へ愛着を持ち、居続けたいと思えるような環境・機会づくりを増やしていきたいと思えます。



10/5企画会



11/14出店準備



11/23産業祭出店

匹見下地区

## この味を、次世代へ。広島料理人が惚れ込んだ『匹見のとち餅』

広島県出身の増田崇さん(48)は、広島市内で奥さまと小料理店を営み、ごま豆腐や瀬戸内の魚・野菜料理を提供してきました。休日のたびに島根を巡る中で、匹見の豊かな自然に心を奪われ、「ここで暮らしたい!」と移住を決意。令和6年11月から匹見で新たな一歩を踏み出しました。きっかけの一つは、石谷地区で40年以上活動を続ける内容とちの実会との出会い。以前から新聞報道を通じて同会の取組を知っていた増田さんは、加工場を訪ねるとち餅を購入します。その味わいの奥深さに魅了され、伝統を受け継ぎたいと門をたたきました。代表の村上巴さんから製法を学び、これまで門外不出だった技も受け継ぎながら、いつか自らの力でとち餅を多くの方に届けられる日を目指して研鑽を重ねています。



増田崇さん（左から2人目）と  
内容とちの実会の皆さん

道川地区

## 道川の魅力を発信する新しいイベントづくり

紅葉真っ盛りの令和7年秋、「旧割元庄屋美濃地屋敷」で桂歌蔵さんをお迎えして落語会を開催しました。

道川地区では、これまで「出合いの里みちかわ」で「秋の収穫祭」と題したイベントを開催してきましたが、人手不足などにより運営が難しくなっていました。「限られたマンパワーでもできることはないか」と、(一社)道川地域づくりの会の企画委員会(40~60代8名)を中心に話し合いを進め、益田市内の音響会社の協力も得て、美濃地屋敷を活用した落語会を今回初めて開催しました。

終了後には、道川地区で特産化を進めている古代あずきを使用したぜんざいも振舞い、道川の魅力をしっかりPRすることができました。





# 交流から滞在、そして定住へ

～2026年3月末現在の情報です～

## ちょっと匹見を体験したい方は……



### うつだに 日帰り体験「内谷とちの郷」

体験内容：料理体験（わさび漬け、こんにやく、とちもち）、わさび収穫体験  
料 金：直接お問い合わせください  
住所・連絡先：益田市匹見町石谷口 561 TEL/FAX 0856-56-0589（村上）

## 移住・定住を検討している方は……



### ひきみ田舎暮らし体験住宅 しまね田舎ツーリズムの宿「TERA-HOUSE 2」

- 清流・匹見川のほとりに建つ古民家をリフォーム。
- オール電化で快適に滞在でき、生活に必要な電化製品も完備しています。
- デッキではバーベキューも楽しめます。 ●1泊から連泊まで利用可能。



TERAHOUSE\_QR

体験内容：川遊び、わさび谷見学、郷土料理「うずめ飯」づくり ※別途料金  
料 金：1棟貸し・1泊（素泊まり）17,000円（最大7名まで）※連泊の場合はご相談ください。  
住 所：益田市匹見町澄川イ291-1 TEL：090-7776-0487（寺西）



わさび収穫体験

### 【田舎体験】

匹見町では、豊かな自然を活かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



稲苗箱運搬作業

### 【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。

## もっと匹见到滞在したい方は……

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限付きのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。



### 〈使用者の条件〉

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

〈使用期間〉 1ヶ月以上3年以内

### 〈使用料〉

2026年3月末現在

施設区分	戸数（空き戸数）	使用料（月額）
単身用（1DK）	2（0）	8,100円
世帯用（3DK）	2（0）	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

### 〈使用について〉

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。（空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。）

## 匹见到の定住をお考えの方は……

### ●Uターン相談窓口

匹见到への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことやわからないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。



定住情報

### 住宅に関する各種事業

#### 空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。

この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、Uターン希望者にそれぞれ登録してもらい、益田市役所及び匹見分庁舎が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹见到内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

#### 地域の担い手移住リフォーム事業補助金

本人または3親等以内の親族所有の家屋に移住するUターン者や、空き家バンク制度を利用し移住されるUターン者が住宅を改修する際に、補助金を交付します。改修工事に着手するまでに申請が必要です。詳しくは右記の二次元コードからご確認ください。



定住・Uターンに関する  
問い合わせ先

益田市役所匹見分庁舎 匹见到地域総務課  
〒698-1211 益田市匹见到町匹见到イ1260

電話：0856-56-0300  
FAX：0856-56-0362



バックナンバー